



工業会

The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)



発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
 〒101-0047
 東京都千代田区内神田2丁目8番1号 富高ビル3F
 電話 03-5207-5960 FAX 03-5207-5961
 URL : <https://www.jandt.or.jp/>
 編集 : 広報部会

令和7年度 定時総会を開催

6月9日、東京都千代田区の如水会館において第27期第54回定時総会を、正会員129名(内委任状82名)が出席し開催された。

総会では、第1号議案として令和6年度の事業報告、第2号議案として財務諸表及び監査報告、第3号議案として専務理事退任に伴う第27期(令和7年度)の新任理事2名の選任について審議され、満場一致で承認された。続いて令和7年度の事業計画書及び収支予算書が報告された。

その後開催された懇親会では、各界から120名を超えるご出席をいただいた。

主催者を代表して長岡康之理事長は、第54回定時総会が無事に終了した旨の報告をしたうえで、「今の非破壊検査業界の課題は人手不足である。当工業会では、民間資格の国家資格化を目指すことや工業会HPの刷新による情報発信力の強化、インフラ点検技術講演会をはじめとする各種講演会や教育講習を積み重ね、業界の地位向上と業界に対する社会的評価を変えるなどの施策で、課題に取り組んでいきたい。また、皆さまの協力のもとで、国の安心安全を守っていくことが非破壊検査業の務めであると考えております」と挨拶した。

来賓挨拶は、国土交通省の吉岡幹夫事務次官より「国土強靱化の次期5カ年計画が20兆円強の予算規模で決定した。八潮の陥没事故や天井板崩落事故などインフラの老朽化対策が急務であり、非破壊検査技術を活用してコストを抑え効率的・効果的な点検を実施していく。また、i-Construction 2.0を掲げ効率化・生産性向上に取り組んでいる、皆様と連携しながらこの取り組みを進めていきたい」とご祝辞をいただいた。

続いて、公明党非破壊検査技術振興議員懇話会会長の秋野公造参議院議員より「インフラ施設の長寿命化に必要な非破壊検査技術の重要性と検査技術の質



定時総会のもよう



懇親会のもよう

を担保していくためには、国家資格化を目指すべきであり全力で応援したい」と、経済産業省製造産業局の須賀千鶴産業機械課長は「日本経済は30年にわたるデフレから脱却し明るい兆しが見えてきたが、米国の関税措置により先行きが不透明となった。政府として関税対策本部を立ち上げ各省庁で連携し、特別相談窓口を設置するなど躊躇なく支援策を講じていきたい」と、日本非破壊検査協会の落合誠副会長からは「当協会是非破壊検査工業会と日頃から連携しており、資格認証制度においても連携を強めている。今後ともよろしくお願ひしたい」とご祝辞をいただいた。

乾杯のご発声は、日本溶接協会の水沼渉専務理事より「溶接技術はISOで特殊工程と定められ、この技術が日本全国で使用され一流の品質が担保されている。溶接の設計・施工・検査が三位一体として世界に冠たる溶接技術を誇っている」とご挨拶をいただき、乾杯の掛け声と共に懇親会が盛大に行われた。

宴たけなわの中、当工業会の堀充孝副理事長の三本締めで閉会となった。



長岡 康之
理事長



吉岡 幹夫
国土交通省 事務次官



秋野 公造
参議院議員



須賀 千鶴
経産省製造産業局
産業機械課長



落合 誠
JNSDI副会長



水沼 渉
JWES専務理事

本年度総会での表彰

| | |
|-------|--|
| 工業会賞 | <p>埴 晴行 氏（一般社団法人日本非破壊検査工業会）</p> <p>（表彰理由）第24期～第27期専務理事。事務局長兼認証事務局長として、資格認証事業の維持継続に尽力、新技術の活用に対する調査検討や非破壊検査技術者への技術教育の取り組み、関係省庁並びに対外団体との交流促進、事務局業務の合理化推進等の運営に係わり、非破壊検査技術の普及および当工業会の発展に貢献した。</p> |
| 技術奨励賞 | <p>鈴木 優平 氏（株式会社IHI検査計測）</p> <p>（表彰理由）これまで検査員が接近して実施していた長大橋（吊橋）ケーブルバンド締付ボルトの軸力計測において、ワイヤレス式軸力計測システムを開発、精度評価及び実機を用いた検証試験により遠隔での軸力計測技術を確立、開発委員会等で報告するなど、非破壊検査技術の普及と技術向上に貢献した。</p> |

第27期（令和7年度）会務担当／顧問 （敬称略）

| 役職名、担当部門 | 氏名 ※□内備考（特記事項） |
|----------|--------------------|
| 理事長 | 長岡 康之 [代表理事、全体統括] |
| 副理事長 | 清水 重之 [理事長代行] |
| | 堀 充孝 [理事長補佐] |
| 専務理事 | 渡邊 正宏 [理事長補佐、事務局長] |
| 総務部会 | 部会長 長岡 康之 |
| | 副部会長 清水 重之、堀 充孝 |
| 広報部会 | 部会長 富田 裕樹 |
| | 副部会長 日比 和彦、木村 成晴 |
| 技術部会 | 部会長 安田 裕之 |
| | 副部会長 出牛 利重、中村 英之 |
| 教育部会 | 部会長 坂本 敏弘 |
| | 副部会長 的場 正文、野口 博文 |
| 認証部会 | 部会長 山中 伸晃 |
| | 副部会長 木村 成晴 |

| 役職名、担当部門 | 氏名 ※□内備考（特記事項） |
|----------|----------------|
| 安全部会 | 部会長 猿渡 保 |
| | 副部会長 出牛 利重 |
| 東日本支部 | 支部長 小田原 勝彦 |
| | 副支部長 安田 裕之 |
| 関西支部 | 支部長 的場 正文 |
| | 副支部長 山中 伸晃 |
| 西日本支部 | 支部長 清水 重之 |
| | 副支部長 野口 博文 |
| 機材支部 | 支部長 堀 充孝 |
| | 副支部長 日比 和彦 |
| 監事 | 岡 賢治、小池 幸洋 |
| 顧問 | 松村 康人 |
| 顧問 | 小倉 幸夫 |

※専務理事は常勤

第27期（令和7年度）新任役員のご紹介 （敬称略）

【専務理事 渡邊 正宏】

第27期より専務理事に就任しました渡邊正宏でございます。これまで第19期から第26期まで、広報部会、認証部会、東日本支部長として工業会活動に携わって来ました。これからは専務理事（事務局長）として会の運営に尽力いたします。表に出る機会が減るかもしれませんが会員皆さま方のご協力をお願いします。非破壊検査業界も人手不足が常態化する中、更には有資格者の維持も厳しい環境かと思われま。会員皆さんへの有意義な情報が発信できますよう頑張ってお参りたいと思っております。



【広報部会・認証部会担当 木村 成晴】

第27期の新任理事に就任いたしました木村成晴でございます。任期途中でのイレギュラーな就任となりますが、微力ながら先輩理事や会員の皆様のご指導を仰ぎながら、工業会の発展に尽力する所存です。認証事業を通じて業界内外の連携を強化し、情報共有のプラットフォームを構築することで、非破壊検査の重要性を広め、安全で信頼性の高い技術の普及を図りたいと思っております。皆様と共に、より良い未来を築いていくために努力して参りますので、何卒ご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



退任役員からのごあいさつ （敬称略）



【専務理事兼事務局長 埴 晴行】

第24期～第27期に専務理事兼事務局長を仰せつかり、その間、インフラ調査士登録資格の更新、50周年記念事業、新型コロナウイルス感染症拡大への対応、委員会等のWeb化推進、事務局業務等の合理化などを推進して参りました。特に、屋外貯蔵タンクへの新技術の調査検討では、保守検査への渦電流探傷試験の適用に見通しを得ることができ、非破壊検査のデジタル化に貢献できたものと考えています。これらは、皆様の多大なご支援とご指導の賜物であり、心より感謝申し上げます。非破壊検査はものづくり産業の基盤技術であり、これからも新たな検査技術への取り組みを進めることで業界の益々の発展を祈念するとともに、これまでのご協力に重ねて感謝申し上げます。

第3回 インフラ点検技術講演会を開催

当工業会は4月14日、東京都品川区のきゅりあん（品川区立総合区民会館）において「三巡目点検と新技術活用の現状と展望」をテーマに「インフラ点検技術講演会」を開催した。2014年度以降、橋梁、トンネル、道路附属物等について、5年に1度の点検が義務化され、2024年度からは3巡目点検が行われている。当日は、国土交通省並びに各界の第一人者による最新の点検技術に関する講演に、193名が参加した。

主催者を代表して長岡康之理事長は、「埼玉県八潮市での道路陥没事故は、下水道管上部の腐食により土砂が流入し空洞化したところに道路が崩落した。下水道管に限らず街中に潜む危険に対処する定期点検が重要である。3巡目となる法定点検は、深刻な人手不足の中でAIによる画像処理や診断技術による効率化・高度化及び様々なデータや知見の活用を模索していくことで、見えないものを見える化する非破壊検査技術が、住みやすい街、安全な世の中に貢献していくものと期待している」と述べた。

最初の講演は、パシフィックコンサルタンツ交通基盤事業本部の安田亨技術顧問より「道路トンネルにおける三巡目点検に向けた新技術活用の現状と課題」と題して、3巡目点検に求められる技術の社会実装に向け、データ互換性・データ管理方法・共通プラットフォームの整備等の課題と今後の方向性等に関する講演を行った。

続いて、京都大学の大西有三名誉教授より「点検業務の効率化に関する新技術およびその適用に関する課題と展望」と題し、インフラの老朽化対策として期待される新技術を適用するには、法規制の整備が不可欠であり、政府や自治体の支援強化が必要であるとの考えを示唆した。

昼食を挟んで午後の部では、国土交通省中国地方整備局 中国道路メンテナンスセンターの鈴木晃センター長より「中国地方整備局のインフラ（橋梁）点検診断に係わる取り組み」に関する報告があった。



講演会のもよう

続いて、日本海コンサルタント担当技師長（道路）兼 AI技術室の安藤正幸室長は「AI橋梁診断支援システム【Dr.Bridge】を用いた小規模橋梁点検」に関する活用事例を紹介した。

最後の講演は、国土交通省道路局 国道・技術課（技術企画グループ）の近藤弘嗣企画専門官は「法令定期点検三巡目の要領改定と道路構造物技術基準」と題して、3巡目となる定期点検に関する要領改定と道路構造物の技術基準について説明した。

閉会に際し、当工業会の渡邊正宏実行委員長は「今回は、三巡目点検と新技術活用の現状と展望をテーマに開催した。当工業会は、テーマとした新技術やその活用に関する情報をこれからも収集・発信していく、今後ともご支援・ご協力を賜りたい」と謝辞を述べ閉会となった。



長岡 康之
理事長



安田 亨
技術顧問



大西 有三
名誉教授



鈴木 晃
センター長



安藤 正幸
室長



近藤 弘嗣
企画専門官

豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査・埋設物調査

JASCO 株式会社 ジャスコ
JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本社 〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
TEL 045 (473) 5140 FAX 045 (473) 5141
札幌営業所 〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
TEL 011-875-4166 FAX 011-875-0666
E-mail: eigyou@kk-jasco.co.jp http://www.kk-jasco.co.jp/

アンカー工事
スタッド
ハツリ
耐震補強

引張試験
レントゲン
鉄筋探査

ダイヤモンド販売
コアビット
ハンドカッター販売
カップサンダー販売
道路用プレート販売

社団法人日本建設あと施工アンカー協会加盟
中央総業株式会社
神奈川県相模原市南区相模大野3-20-1 中央総業ビル4F
☎ 0120-07-1222 FAX 0120-07-5585

ライニング管の検査手法「Lining Scan IRIS」の開発

1.はじめに

熱交換器チューブの超音波による検査手法は、回転ミラーを用いた水浸超音波肉厚測定 (IRIS) が一般的だが、ライニング管 (図1) においては、ライニングのエコーが障害となりこの手法を適用することができない。そのため、弊社では従来からライニング管の検査は固定ミラーの手動による超音波水浸法を用いてきた。しかしこの手法は検査員の技量の差で正確性や探傷速度が変わるといった問題があった。「Lining Scan IRIS」はこの問題を解決するため、回転ミラーを用いた水浸超音波肉厚測定 (IRIS) と同じような断面図や展開図で減肉部を表現し、評価を可能にすることを目的に開発した。

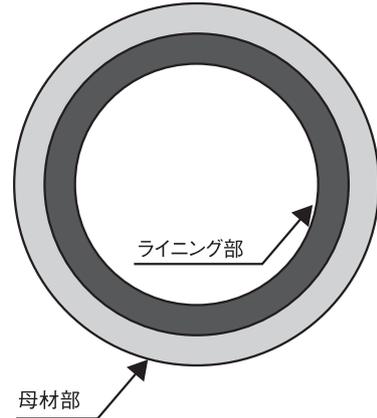


図1 ライニング管 管断面イメージ

2.「Lining Scan IRIS」の概要

図2はガラスライニング管の波形の概念図となる。ガラス2回目のエコーが丁度母材の厚みの中間に位置するため、このエコーを境界 (破線) に母材①、母材②と2分割し、それぞれ個別に厚みを求める方法をとった。また母材①母材②は断面図を合成表示することで、管の断面画像を表現した (図3)。

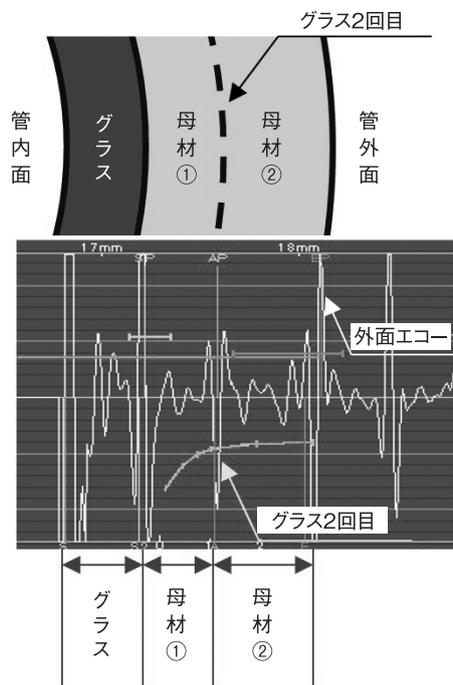


図2 波形の概念図

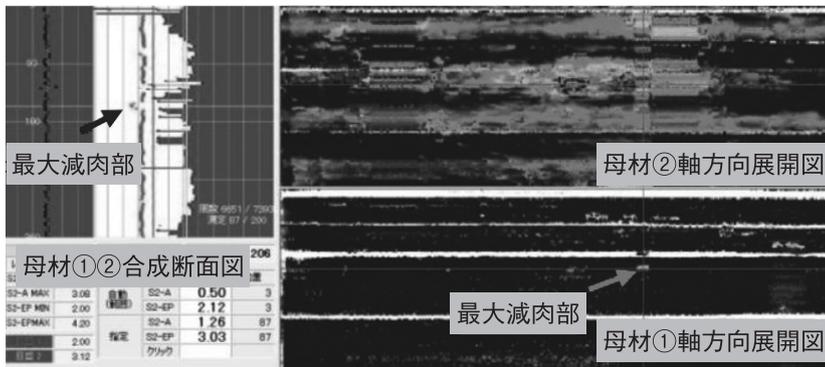


図3 解析画面

3.「Lining Scan IRIS」の効果

「Lining Scan IRIS」は縦型熱交のガラスライニング管の検査で実績を積んでいる。探傷は全数全長のデータを収録し、その後データ解析ソフトを用い各チューブの最大減肉箇所を検出、記録する方法で行っている。これにより従来法よりも減肉箇所が把握し易く、また検査にかかる時間も従来から2～3倍短縮された。試験片による加工傷の厚さ確認では、加工傷の厚みに対し誤差0.1mm未満の測定精度が確認されている。

「Lining Scan IRIS」を導入したことにより、検査精度や速度が上がるということが認められたが、ガラスライニング管は母材部とガラス部が部分的に剥離 (密着していない) しているものも思いのほか多いこともわかった。なお、剥離範囲は母材部に超音波が入らないため検査不可となる。

溶接部位のX線画像における高精度欠陥検出技術の開発

1. はじめに

検査の自動化において、画像認識システムは広く産業応用されている。厚物溶接継手のX線画像検査においては、欠陥部位のコントラストが低く、また、線源に起因するノイズ、量子モトル、フィルムの粒状性など、様々なノイズが発生し、視認性が悪い。そのため、検査員には特に高いスキルと長時間の集中力が求められており、識別支援のための検査支援システムのニーズが存在する。しかしながら、不鮮明かつノイズが多い画像であり、欠陥のサンプル数も少なく、画像認識システムの適応が難しかった。

2. AIを用いた高精度欠陥検出技術

厚物溶接継手のX線検査を対象とした自動欠陥検出技術は①欠陥のコントラストが低く、ノイズレベルが高い、②機械学習の判定のために必要な欠陥画像のデータ数が少ないという課題が存在する。これらの課題を解決するため、国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同で開発を行った。以下に、欠陥判定のフローを示す(図1)。

模擬欠陥画像の作成：課題②の解決策として、シミュレーションを用いて模擬的に欠陥部位の画像を大量に生成する。健全部位データに模擬欠陥信号を重畳することで、“欠陥の形状”並びに“画像のノイズ”を模擬的に表現できる。

色ムラの除去：画面全体で輝度が均一となるよう調整することで、X線画像内に生じる色ムラを除去する。

欠陥強調画像の作成：課題①に対する解決策として、統計的リーチ特徴量SRFを用いて欠陥強調画像を作成する。(注 SRF:Statistical Reach Feature 画像の中で周囲と少しでも輝度差が生じている領域に反応する特徴量)

画像の特徴量ベクトル化：欠陥強調画像に対して、高次局所自己相関特徴HLACの特徴ベクトルを小領域ごとに算出する。(注 HLAC:Higher-order Local Auto-Correlation)

SVMによる欠陥の判定：サポートベクターマシンSVMにて各特徴ベクトルが欠陥の特徴であるか、健全部の特徴であるかを判定する。

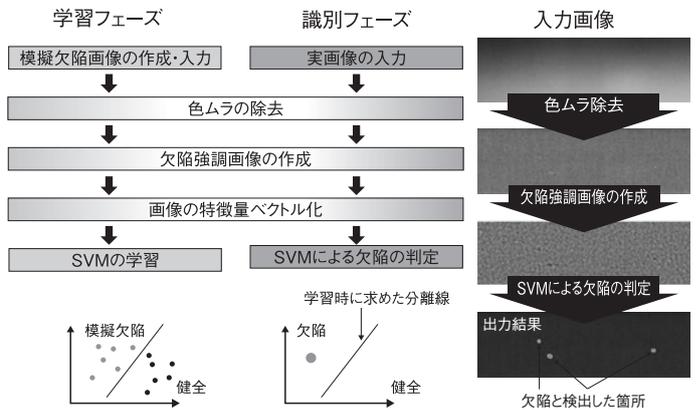


図1 欠陥の判定フロー

3. 本システムの導入効果

画素毎に近傍画素の明度の差を比較する従来手法では、欠陥の検知率が81.5%、誤検知数が115箇所/枚だったのに対し、開発手法では検知率100%、誤検知数5.8箇所/枚となり、欠陥の見逃しをゼロとした上で誤検知数の低減も可能となった(図2)。これは、厚物溶接継手のX線画像検査を対象とした検査員の欠陥識別支援として十分実用に足る性能であり、検査のダブルチェックやスクリーニングに用いることで検査員の負担を大幅に低減することが期待できる。

| 図2 判定結果 | 従来手法 | 開発手法 |
|-------------------------------------|--------------|-------------|
| 検出結果 ■：正検知 欠陥を正しく検出 □：誤検知 誤検出 | | |
| 検知率 [%] | 81.5 (22/27) | 100 (27/27) |
| 見逃し数 [箇所] | 5 | 0 |
| 誤検知数 [箇所/枚] | 115 | 5.8 |

問合せ先：三菱重工業株式会社 総合研究所 制御システム研究部 制御システム第一研究室 第二チーム 青山 慶子
 TEL：080-8594-2964 E-MAIL：keiko.aoyama.a2@mhi.com
 総合研究所 制御システム研究部 制御システム第二研究室 第二チーム 松本 知浩
 TEL：080-9599-4135 E-MAIL：tomohiro.matsumoto.5h@mhi.com

関西支部 令和7年度 支部大会を開催

6月12日、関西支部定期大会が三重県の鳥羽シーサイドホテルにて25名参加のもと開催された。山中伸晃副支部長の開会宣言に続いて、的場正文支部長は、支部の事業活動への協力に謝辞を述べ「当業界が直面する、社会インフラの老朽化対策、DXの推進、人材不足・技術継承といった課題に、私たちはこれまで以上に真摯に取り組んでいる。社会インフラにおいては、点検要領の改定や3巡目点検に伴う検査需要が一層高まっている。また、本部事業ではインフラ点検技術講演会の開催をはじめ、非破壊検査に係る技術者資格認証事業の推進、業界関係団体との連携強化を図り、業界の発展に努めてきた。本年度は、変化の多い時代のなか社会のニーズに柔軟に応えながら、いかに人材を確保し、定着させ、成長してもらおうかという大きな課題にも真剣に向き合わなければならないと感じている」と挨拶した。



的場正文支部長

支部大会は事業報告書に基づき、担当幹事・監査より令和6年度の事業報告と決算報告及び監査報告並びに令和7年度の会務担当及び運営体制と事業計画及び収支予算の報告と、活動協力賞等の表彰式が行われた。機材支部の製品紹介は、KS-NETからバッテリーを内蔵した設計で外部電源が不要となるPROMAG AD 3ヨークが紹介された。



支部大会の模様

その後会場を移し、岡村視巧幹事の司会進行のもと、川崎博義幹事の開会挨拶、富田裕樹幹事の乾杯音頭で懇親会が開宴し、各社出席者の和やかな歓談が行われ親睦を深め、藤井富昭幹事の中締めにより閉会した。

お客様と社員に信頼される

企業でありつづける



溶接検査株式会社

本社：〒985-0853

宮城県多賀城市高橋4丁目13-1

TEL：022-352-3459

FAX：022-352-3460

URL：<http://yosetsukensa.com>

出張所：青森・山形・秋田

技術と信頼であらゆるニーズにお答えします

"High Quality Inspection Service"



株式会社 アイ・エム・シー

事業内容 ■ 非破壊検査全般 ■ タンク・プラント保守検査
■ インフラ点検全般 ■ 品質管理業務

認定 (一社)日本溶接協会(CIW)認定 A種
ISO9001 認証 JMAQA-1790

一般建設業許可 国土交通大臣許可(般-6)第23267号 他

本社 〒652-0898 神戸市兵庫区駅前通5丁目3番14号

TEL 078(577)3691 FAX 078(576)2008

URL <https://imc-ndi.com>

事業所 千葉事業所/中部事業所/関西事業所

CIW認定 A種 想像から創造へ 今感動の技術
労働者派遣事業許可
ISO9001 認証 JMAQA-1749



株式会社ダンテック

■ 非破壊試験検査全般 ■ 建築・土木構造物調査診断
■ 各種プラント保守点検 ■ 各種設備・配管劣化調査
■ 品質管理 ■ 破壊試験・化学分析等材料試験

本社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL.06(6354)3641 FAX.06(6354)2707



壊さず
診る!!

非破壊検査

インフラ調査

プラント検査



東洋検査工業株式会社

【本社】〒640-8306 和歌山市出島31-5 TEL:073-471-1311 FAX:073-474-6211
【支店・営業所】大阪府堺市/和歌山県和歌山市/茨城県神栖市

新入社員のための非破壊検査基礎講習会

機材支部計測分科会(清良平委員長)は、4月17日～18日の両日に、川崎市川崎区の日本溶接技術センターにて「新入社員のための非破壊検査基礎講習会」を開催し24名が受講した。非破壊検査の基礎及び理解・普及を目的とした講義と実習で構成した講習会は、毎年定員を超える応募があり盛況である。講習会は、新入社員や検査機器に触れることが少ない事務系職員などを対象とした初心者向けの内容となっており、非破壊検査概論や溶接に関する講義、各種の検査手法に関する基礎講習や実機を使用した実技講習も行われた。



座学講習の模样



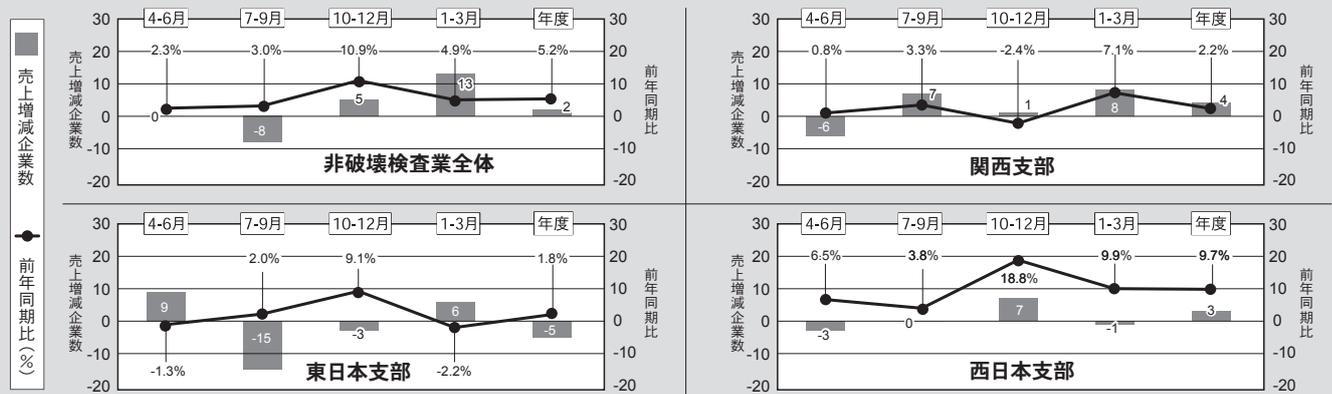
実習の模样

講義内容

| | | | |
|---------------|--------------|---------------|----------|
| 1日目： 講義・実習 | 非破壊検査概論 | 2日目： 講義・実習 | 超音波探傷試験 |
| | 溶接について | | 放射線透過試験 |
| | 赤外線サーモグラフィ試験 | | 電磁誘導試験 |
| | 磁粉探傷試験 | | 配筋探査 |
| | 浸透探傷試験 | | AE、ひずみ測定 |
| | 質疑応答 | | 質疑応答 |

令和6年度 各支部会員会社の景況感

定期月次売上調査の集計結果を前年同期比として纏め、下図に示す。売上増減企業数は、前年同期に対して売上の増加した企業数から、減少した企業数を減じた企業数を表す。また、前年同期比は、各支部の前年度売上高に対する増減の割合を表す。



会員動向 令和7年3月31日 現在 193社 (東日本支部 77社、関西支部 42社、西日本支部 41社、機材支部 33社)

本部

- 入会**
- 賛助会員 株式会社スワレント 総務部総務課 係長 大島 武士 (令和7年4月1日付)
〒241-0803 神奈川県横浜市旭区川井本町103-8
電話:045-952-4546 FAX:045-952-4547 E-mail:oshima_takeshi@sewerent.co.jp
 - 賛助会員 株式会社リガテック 代表取締役社長 石原 禎輔 (令和7年4月1日付)
〒870-0913 大分県大分市松原町3-4-20
電話:097-576-7010 FAX:097-576-7030 E-mail:t.ishihara@sagroup.co.jp



“診る”を究めて

人と技術を「安全」という強固な絆で結び、「安心」を提供します。

新日本非破壊検査株式会社

営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
TEL:093-581-1234 FAX:093-581-4567
東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-9
aLATO日本橋小伝馬町 3階
TEL:03-6661-1307 FAX:03-6661-1308
<https://www.shk-k.co.jp>



EVIDENT

BE READY FOR WHAT'S NEXT

使いやすさと性能がさらに進化した第4世代OmniScan



omniScan X4

64 素子同時励振 (TFMは128)
小型 (約6kg)・タフ設計
リアルタイム PCI※対応
※PCI: 位相コヒーレンスイメージング

株式会社エビデント ☎0120-58-0414 (フリーダイヤル) www.EvidentScientific.com

2025年前期 インフラ調査士資格試験を実施

5月15日インフラ調査士資格学科試験（一次試験・再試験）が東京・大阪で同時に行われた。

【学科試験】新規受講・受験者数：59名、
再試験者数：29名

【二次試験】8月5日～6日

試験会場：川崎市産業振興会館
（神奈川県川崎市幸区堀川町66-20）

| 資格 | 橋梁（鋼橋） | 橋梁（コンクリート） | トンネル | 付帯施設 |
|------|--------|------------|------|------|
| 受験者数 | 67名 | 68名 | 65名 | 80名 |
| 合格者数 | 62名 | 57名 | 51名 | 41名 |

2025年前期 配筋探査技術者資格試験を実施

5月29日「コンクリート構造物の配筋探査技術者（土木）資格認証学科（一次）試験」が実施された。受験者情報は表のとおり。

| 学科（一次）試験結果 | | | | | |
|------------|-----|-----|-------|-----|-----|
| | 関東 | 関西 | 受験者合計 | 合格者 | 合格率 |
| 新規受験 | 56名 | 63名 | 119名 | 92名 | 77% |

| 実技（二次）試験日程予定 | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 受験地 | 関東（川崎市） | 関西（大阪市） |
| 日付 | 8月26日～27日 | 8月19日～21日 |

【講習会開催情報】

| | | | |
|------------------------|---------------|-------------------------|----------|
| インフラ調査士講習会 [教育部会] | 4月18日 | オンライン (Zoom) のリアルタイム講習会 | 受講者 62名 |
| 配筋探査講習 [教育部会] | 土木 4月1日～4月21日 | eラーニング講習 | 受講者 71名 |
| | 建築 5月8日～5月28日 | | 受講者 35名 |
| 非破壊検査基礎講習会 [機材支部計測分科会] | 4月17日～18日 | 日本溶接技術センター（川崎市川崎区） | 受講者 24名 |
| エックス線安全取扱教育講習 [安全部会] | 4月1日～5月31日 | eラーニング講習 | 受講者 138名 |

サンコウの測定器・検査機器

非接触膜厚計コートマスター FLEX

◆ウェット／乾燥状態の
コーティング層を非接触で
測定可能！



SANKO 株式会社サンコウ電子研究所
東京：03-3254-5031 大阪：06-6881-1230 仙台：022-292-7030
名古屋：052-915-2650 福岡：092-282-6801
URL <https://www.sanko-denshi.co.jp>

株式会社昭和製作所

材料試験片
超音波探傷用試験片
特殊精密試作部品

〒143-0015 東京都大田区大森西2-17-8
TEL 03-3764-1621
FAX 03-3764-1626
WEB <https://showa-ss.jp>



Pony

工業用LED高輝度シャカステン PHC-V



・JIS Z 4561(1992)に対応しD35形を満足する観察器
・安心の国産LEDチップを採用
・コンパクト化を実現（当社比）
・耐擦傷性高透明アクリルを使用し、耐久性向上（当社比）

LED対応透過濃度計 DMP-V



・小型・軽量
・従来の蛍光灯・LED光源にも対応※（輝度約50,000cd/m²まで）
・1つのボタンでONとキャリブレーションが可能（オートOFF機能搭載）
※当社製シャカステンに対応しています。



Pony ポニー工業株式会社 お問い合わせ先
（大阪）06-6262-6510
www.ponyindustry.co.jp （東京）03-5472-1091

非破壊検査機器の販売・修理・校正・レンタル



工業X線発生装置



超音波探傷器 USM100



超音波厚さ計 DM5E

支える、の一番近くに。

RIKOH-S 理工サービス株式会社

〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号
TEL：(082)292-2552 (代) FAX：(082)295-0566
E-mail: rikoh@rikoh-s.com URL：<https://www.rikoh-s.com/>

